

2025 年 7 月 27 日（聖霊降臨後第 7 主日・特定 12、C 年）

牧師メッセージ

「お父ちゃんに、しつこく祈る」

（ルカによる福音書11:1-13）

司祭ヨセフ太田信三

主イエスはご受難の前、オリーブ山で「この杯を取り除いて欲しい」と祈りました。しかし、さらにその祈りの中で、「わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」と、自分の思いを神さまの思いへと委ねました。イエスですら恐れの中で、必死で祈ることなくして、神のみ心に従って歩むことはできなかったのです。ならば私たちにとって、祈ることがどれほど大切かと思わされます。今日の福音では、イエスはいわゆる主の祈りとともに、祈ることとはどういうことかを語りました。

イエスはたとえ話をうい、「求め」「探し」「たたく」こと、つまり執拗に、しつこく祈り続けることの大切さを教えました。主の祈りのはじめ、「父よ」と神を呼ぶことから祈り始めなさい、とイエスは教えたが、この「父よ」というのは、こどもが親しみを込めて父親を呼ぶ、「お父ちゃん」というニュアンスの言葉です。祈るときには最大限の親しみをもち、「お父ちゃん」と呼びかけることから始めなさいと、イエスは教えたのです。洗礼を受け、私たちは神の子とされ、神はわたしたちのお父ちゃんとなってくださっています。「お父ちゃん、お父ちゃん」と一生懸命に話しかけてくるこどもの話しを無視する父親はそうそういません。まして、父なる神は「お父ちゃん」と呼びかける私たちの声を必ず聞いてくださり、私たちの望みをはるかに超えて、良い物を与えてくださる。このことを、イエスは主の祈りを通して、そして続けたたとえ話で教えてくださいました。

聖霊降臨のとき、祈る弟子たちに聖霊をお与えになったように、父なる神は、祈る私たちにも必ず聖霊を注いでくださいます。聖霊は私たちに必要な糧を与え、罪を赦し、誘惑から守ってくださいます。この聖霊こそ、イエスですら祈らなければ歩むことができなかった、神と人とを愛して歩む道へと私たちを導いてくださる、神からの「良い物」です。神との関係は決して遠いものではありません。私たちが「お父ちゃん」と祈るとき、そこに神はおられ、「お父ちゃん」なる神は、必ず私たちの祈りを聴き、「良い物」を与えてくださいます。